

令和 8 年度

編入学生募集要項

入学案内



(選抜日程表)

願書受付期間	試 験 日	合 格 発 表 日
令和 7 年 8 月 1 日 (金) ～ 8 月 7 日 (木)	令和 7 年 8 月 2 9 日 (金)	令和 7 年 9 月 4 日 (木)

独立行政法人国立高等専門学校機構

舞鶴工業高等専門学校

〒625-8511 京都府舞鶴市字白屋 234 番地

電話 (0773) 62-8881

FAX (0773) 62-8889

目 次

舞鶴工業高等専門学校三つのポリシー

1. アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）	1
2. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）	2
3. ディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）	5

令和 8 年度舞鶴工業高等専門学校本科編入学生募集要項

I 募集学科・募集人員・編入学年	7
II 出願資格	7
III 出願手続	7
IV 入学者選抜方法	9
V 合格者発表	10
VI 入学手続	10
VII 個人情報の取り扱い	10
VIII その他	10

舞鶴工業高等専門学校 入学案内

1. 沿革概要	11
2. 目的	11
3. 教育理念と教育方針	11
4. 学科の紹介	11
5. 各学科の定員	13
6. 修業年限及び授業	13
7. 教育課程	14
8. 課外活動	23
9. 学寮	23
10. 施設概要	23
11. 必要経費	23
12. 入学料・授業料の免除及び奨学金制度について	24

舞鶴工業高等専門学校三つのポリシー

1. アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

本校では、工学の基礎と教養を身につけ、活動力、創造力、国際感覚豊かな実践的開発型技術者の育成に努めています。そのため、次のような人の入学を期待しています。

- (1)「ものづくり」を通して、自立した人間を目指す人
- (2)自ら学ぼうとする姿勢を持ち、本校入学までに教育機関で学習する内容を十分理解している人
- (3)社会のルールを守って、いろいろな人と協調していける人

また、各学科が求める適性は以下のとおりです。

■ 機械工学科

機械工学科では、理論と現象を正確に理解し、いろいろな事態に的確に判断でき、それを実行できる行動力を持った技術者の育成を目指しています。機械工学は、あらゆる「ものづくり」の基礎をなす学問であるからです。本学科では、次のような人の入学を期待しています。

- 「ものづくり」が好きな人、関心がある人
- 「自動車」、「ロボット」や動くものが好きな人、関心がある人
- 将来、機械の開発、設計、製造、保守等の分野で世の中の役に立ちたい人

■ 電気情報工学科

電気情報工学科では、将来に渡って「発想の泉」となる工学基礎科目の上に立ち、電気・電子系及び情報系科目の幅広い分野を勉強します。本学科では、次のような人の入学を期待しています。

- 電気・電子、情報・通信分野に関心がある人
- ハードウェア、ソフトウェアなどの「ものづくり」ができるようになりたい人
- 「自分の志」を抱いて、基礎科目を継続的に学習できる人

■ 電子制御工学科

電子制御工学科では、メカトロニクス技術者の育成を目指し、機械系、電子・電気系、制御・計測系及び情報系の幅広い分野を勉強します。本学科では、次のような人の入学を期待しています。

- ロボットの設計製作や制御応用に関心のある人
- 電子回路やマイコンを使ったものづくりをしたい人
- コンピュータや「もののしくみ」に興味を持ち、好奇心旺盛な人

■ 建設システム工学科

建設システム工学科では、21世紀の住みよい社会を創ることを目的として、その計画、運営、維持を行うことのできる素養を身につけるための勉強をします。本学科では、次のような人の入学を期待しています。

- 自然環境と調和した街づくりに熱意を持っている人
- 災害に強く、安全な社会づくりに興味を持っている人
- 建設技術に関する知識を修得し、地域社会の発展や国際貢献に関わりたい人

本校では、上記の人の入学が実現できるよう次の基本方針で入学者選抜を行います。

〈本科編入学選抜〉

高等学校等を卒業した者（卒業見込みの者を含む）に対して、調査書、学力検査、面接の結果を総合的に評価し、選抜します。

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

準学士課程では、各学科のディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、次のような「教育課程の編成・実施方針」、および「成績評価方法と評価基準」に基づいて教育を実施します。

【教育課程の編成・実施方針】

人文科学や自然科学などを学ぶ学科共通の「一般科目」に対して、工学の専門分野を学ぶ学科ごとの「専門科目」をくさび型に配置し、以下のような科目群を設定して教育課程を編成し実施します。

「一般科目」

- (1) 基礎的な数学と自然科学を修得し、専門分野に応用する力を育成するための科目群（基礎数学、物理、化学、ライフ&アースサイエンスなど）
- (2) 人文・社会科学の一般知識を修得して広い視野を持ち、技術者としての倫理を身につけ、異文化を理解し、交流する力を育成するための科目群（総合英語、総合国語、歴史総合、公共、哲学、法学など）
- (3) 地域、社会等の問題解決のために他者と協働して取り組む力を育成するための科目群（保健体育など）

「専門科目」

■ 機械工学科

- (1) 応用的な数学と自然科学の知識を修得し、専門分野に応用する力を育成するための科目群（応用物理、応用数学）
- (2) 専門分野の基礎を修得し、専門的な問題の解決に活用できる能力を育成するための科目群
 - (2-m1) 材料力学分野（材料力学、材料加工学など）
 - (2-m2) 流体力学分野（水力学、流体工学など）
 - (2-m3) 熱力学分野（工業熱力学、伝熱工学など）
 - (2-m4) 機械力学分野（機械力学など）
 - (2-m5) 設計分野（情報処理、機械設計法、材料学など）
- (3) 専門的な実験を遂行・分析することができ、修得した実践技術をものづくりに活用できる能力を育成するための科目群（機械工学実験、工作実習、設計製図、ものづくり演習など）
- (4) 地域、社会等の問題解決のために他者と協働して取り組み、修得した専門分野の知識・技術を融合して創造し、その成果を発表できる能力を育成するための科目群（創造設計製作、卒業研究など）

■ 電気情報工学科

- (1) 応用的な数学と自然科学の知識を修得し、専門分野に応用する力を育成するための科目群（応用物理、応用数学）
- (2) 専門分野の基礎を修得し、専門的な問題の解決に活用できる能力を育成するための科目群
 - (2-e1) 電気分野（電気基礎、電気回路、交流回路、制御工学など）
 - (2-e2) 電子分野（アナログ回路、電磁気学、電子工学など）
 - (2-e3) 情報分野（情報基礎、C言語、情報理論、オペレーティングシステムなど）
 - (2-e4) 通信分野（アナログ信号処理、デジタル信号処理、ネットワーク論など）
- (3) 専門的な実験を遂行・分析することができ、修得した実践技術をものづくりに活用できる能力を育成するための科目群（回路実習、プログラミング実習、電気情報工学実験など）
- (4) 地域、社会等の問題解決のために他者と協働して取り組み、修得した専門分野の知識・技術を融合して創造し、その成果を発表できる能力を育成するための科目群（創造工学、工学基礎研究、卒業研究など）

■ 電子制御工学科

- (1) 応用的な数学と自然科学の知識を修得し、専門分野に応用する力を育成するための科目群（応用物理、応用数学）
- (2) 専門分野の基礎を修得し、専門的な問題の解決に活用できる能力を育成するための科目群
 - (2-s1) 電気電子分野（電気基礎、電子工学など）
 - (2-s2) 機械分野（水力学、熱力学、材料力学など）
 - (2-s3) 計測制御分野（制御工学、ロボティクス、計測工学など）
 - (2-s4) 情報分野（プログラミング、数値計算法など）
- (3) 専門的な実験を遂行・分析することができ、修得した実践技術をものづくりに活用できる能力を育成するための科目群（メカトロニクス演習、電子制御実習、CAD演習、電子制御実験など）
- (4) 地域、社会等の問題解決のために他者と協働して取り組み、修得した専門分野の知識・技術を融合して創造し、その成果を発表できる能力を育成するための科目群（創造設計プロジェクト、卒業研究など）

■ 建設システム工学科

- (1) 応用的な数学と自然科学の知識を修得し、専門分野に応用する力を育成するための科目群（応用物理、応用数学）
- (2) 専門分野の基礎を修得し、専門的な問題の解決に活用できる能力を育成するための科目群〔都市環境コース〕
 - (2-c1) 構造分野（構造力学、建設材料学、鋼構造学、耐震工学など）
 - (2-c2) 水工分野（水理学、河川工学、海岸工学など）
 - (2-c3) 地盤分野（地盤工学、土木施工、地盤防災工学など）
 - (2-c4) 計画分野（測量学、土木計画、土木施工など）
 - (2-c5) 環境分野（環境工学、環境衛生学など）

〔建築コース〕

- (2-a1) 建築構造分野（構造力学，建設材料学，鋼構造学，建築構造，耐震工学など）
- (2-a2) 建築環境分野（建築環境，建築設備など）
- (2-a3) 建築計画分野（建築計画，建築論，建築法規など）
- (2-a4) 設計・製図分野（建設製図，建築デザインなど）
- (3) 専門的な実験を遂行・分析することができ，修得した実践技術をものづくりに活用できる能力を育成するための科目群（測量実習，建設システム工学実験，情報処理など）
- (4) 地域，社会等の問題解決のために他者と協働して取り組み，修得した専門分野の知識・技術を融合して創造し，その成果を発表できる能力を育成するための科目群（建設製図制作，建設設計製図，卒業研究・卒業設計など）

【成績評価方法と評価基準】

評価方法と評価基準は，以下に示すとおりです。

- (1) 講義科目においては，科目ごとに到達目標を設定し，平常の取り組み（演習，宿題，レポートなど）と定期試験の結果を総合的に勘案し，到達目標に対する到達度を評価します。到達度と評価基準は以下の表のとおりです。

到達度と評価基準

評価	到達目標に対する 到達度（％）	内容	合否
A＋	90～100	期待した能力が優れて身についている。	合格
A	80～89	期待した能力が十分身についている。	
B	70～79	期待した能力が身についている。	
C	60～69	期待した能力が概ね身についている。	
F	60％未満	期待した能力が身についていない。	不合格

- (2) 実技・実験・実習・演習などの実践科目においては，課題の取り組み状況，レポート，発表などを総合的に勘案し，設定された到達目標に対する到達度を評価します。
- (3) 卒業研究（本科）及び特別研究（専攻科）においては，研究成果，研究発表，質疑応答，取り組み姿勢，論文などを総合的に勘案し，設定された到達目標に対する到達度を評価し，60％以上の到達度をもって合格とします。
- (4) 卒業設計（建設システム工学科）においては，発表の内容，質疑応答，取り組み姿勢，論文などを総合的に勘案し，設定された到達目標に対する到達度を評価し，60％以上の到達度をもって合格とします。

3. ディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）

■ 機械工学科

機械工学科では、本校準学士課程の目的に基づき、自らが継続的に学習することで、以下の目標を達成し、卒業の認定に関する規程に定める基準を満たした学生に卒業を認定します。

- (i) 数学と自然科学を修得し、専門分野に応用することができる。
- (ii) 専門分野の基礎を修得し、専門的な問題を解決するために活用できる。
- (iii) 専門的な実験を遂行・分析することができ、実習・演習により修得した実践技術をものづくりに活用できる。
- (iv) 修得した人文・社会科学の一般知識により広い視野を持ち、技術者として倫理的に行動し、異文化理解・交流を行うことができる。
- (v) 地域、社会等の問題解決のために他者と協働し、修得した専門分野の知識・技術を融合して創造することができる。また、その成果を発表することができる。

なお、(ii)における専門分野は以下のとおりです。

- (ii -m1) 材料力学分野
- (ii -m2) 流体力学分野
- (ii -m3) 熱力学分野
- (ii -m4) 機械力学分野
- (ii -m5) 設計分野

■ 電気情報工学科

電気情報工学科では、本校準学士課程の目的に基づき、自らが継続的に学習することで、以下の目標を達成し、卒業の認定に関する規程に定める基準を満たした学生に卒業を認定します。

- (i) 数学と自然科学を修得し、専門分野に応用することができる。
- (ii) 専門分野の基礎を修得し、専門的な問題を解決するために活用できる。
- (iii) 専門的な実験を遂行・分析することができ、実習・演習により修得した実践技術をものづくりに活用できる。
- (iv) 修得した人文・社会科学の一般知識により広い視野を持ち、技術者として倫理的に行動し、異文化理解・交流を行うことができる。
- (v) 地域、社会等の問題解決のために他者と協働し、修得した専門分野の知識・技術を融合して創造することができる。また、その成果を発表することができる。

なお、(ii)における専門分野は以下のとおりです。

- (ii -e1) 電気分野
- (ii -e2) 電子分野
- (ii -e3) 情報分野
- (ii -e4) 通信分野

■ 電子制御工学科

電子制御工学科では、本校準学士課程の目的に基づき、自らが継続的に学習することで、以下の目標を達成し、卒業の認定に関する規程に定める基準を満たした学生に卒業を認定します。

- (i) 数学と自然科学を修得し、専門分野に応用することができる。
- (ii) 専門分野の基礎を修得し、専門的な問題を解決するために活用できる。
- (iii) 専門的な実験を遂行・分析することができ、実習・演習により修得した実践技術をものづくりに活用できる。
- (iv) 修得した人文・社会科学の一般知識により広い視野を持ち、技術者として倫理的に行動し、異文化理解・交流を行うことができる。
- (v) 地域、社会等の問題解決のために他者と協働し、修得した専門分野の知識・技術を融合して創造することができる。また、その成果を発表することができる。

なお、(ii)における専門分野は以下のとおりです。

- (ii-s1) 電気電子分野
- (ii-s2) 機械分野
- (ii-s3) 計測制御分野
- (ii-s4) 情報分野

■ 建設システム工学科

建設システム工学科では、本校準学士課程の目的に基づき、自らが継続的に学習することで、以下の目標を達成し、卒業の認定に関する規程に定める基準を満たした学生に卒業を認定します。

- (i) 数学と自然科学を修得し、専門分野に応用することができる。
- (ii) 専門分野の基礎を修得し、専門的な問題を解決するために活用できる。
- (iii) 専門的な実験を遂行・分析することができ、実習・演習により修得した実践技術をものづくりに活用できる。
- (iv) 修得した人文・社会科学の一般知識により広い視野を持ち、技術者として倫理的に行動し、異文化理解・交流を行うことができる。
- (v) 地域、社会等の問題解決のために他者と協働し、修得した専門分野の知識・技術を融合して創造することができる。また、その成果を発表することができる。

なお、(ii)における専門分野は以下のとおりです。

● 都市環境コース

- (ii-c1) 構造分野
- (ii-c2) 水工分野
- (ii-c3) 地盤分野
- (ii-c4) 計画分野
- (ii-c5) 環境分野

● 建築コース

- (ii-a1) 建築構造分野
- (ii-a2) 建築環境分野
- (ii-a3) 建築計画分野
- (ii-a4) 設計・製図分野

令和8年度舞鶴工業高等専門学校本科編入学生募集要項

I 募集学科・募集人員・編入学年

募 集 学 科	募集人員	編入学年
機 械 工 学 科	若 干 名	第 4 学 年
電 気 情 報 工 学 科	若 干 名	
電 子 制 御 工 学 科	若 干 名	
建設システム工学科 都市環境コース 建 築コース	若 干 名	

II 出願資格

次の各号のいずれかに該当すること。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び令和8年3月に卒業見込みの者
- (2) 外国において、学校教育法における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者（令和8年3月31日までに修了見込みの者を含む。）
- (3) 高等学校卒業程度認定試験（旧大検）に合格した者及び令和8年3月31日までに合格見込みの者で、令和8年4月1日までに18歳に達する者
- (4) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（令和8年3月31日までに修了見込みの者を含む。）

ただし、出願できる学科と在籍(出身)学校における所属科との関係は次のとおりとします。

機械工学科	機械，機械系もしくはそれに準ずる工業に関する科。（注）
電気情報工学科	電気，電子，情報技術系もしくはそれに準ずる工業に関する科。（注）
電子制御工学科	機械電子，機械，電気電子，ロボット，制御系もしくはそれに準ずる工業に関する科。（注）
建設システム工学科	所属科を問わない。

（注）上記に掲げる科以外の場合は、個別に出願資格を審査しますので、出願に先立って令和7年7月17日（木）までに学生課教務係に相談してください。

III 出願手続

1. 出願書類受理期間

入学志願者は、出願書類を取りそろえ、令和7年8月1日（金）から8月7日（木）までに持参するか、又は郵送により出願手続を行ってください。

なお、持参による出願手続の受付時間は、各日とも午前9時から午後4時までの間とします。また、郵送の場合は、令和7年8月7日（木）までに必着とします。

2. 出願先

舞鶴工業高等専門学校学生課教務係

〒625-8511 京都府舞鶴市字白屋 234 番地

電話 0773-62-8881 FAX 0773-62-8889

3. 出願書類

出 願 書 類	摘 要
編 入 学 願 書 写 真 票 ・ 受 験 票	本校所定の用紙に必要事項を記入のうえ、写真票には、写真 1 枚を所定の位置に貼付してください。なお、写真（縦 4cm×横 3cm）は、無背景で上半身・脱帽・正面向きで、出願前 3 か月以内に撮影したものを使用してください。
調 査 書	出身（在籍）学校所定の用紙に、当該学校長が記入のうえ、厳封したもの。調査書の評定は、高等学校 2 年生までの全科目について、5 段階評価で記入してください。
卒業（見込）証明書	出身(在籍)学校所定の用紙によるもの。なお、調査書の中で、卒業見込み事項について証明されている場合は、卒業見込証明書の提出は不要です。
推 薦 書	本校所定の用紙に出身(在籍)学校長が作成のうえ、厳封したもの。
志 望 理 由 書	本校所定の用紙に必要事項を記入したもの。
検 定 料 検定料振込証明書 貼 付 用 紙	16,500 円 本校所定の「検定料振込依頼書」に必要事項を記入のうえ、銀行（信用金庫、農協を含む）又は郵便局において検定料を振込み、「振込金（検定料）証明書」を「検定料振込証明書貼付用紙」に貼付したもの。
返 信 用 封 筒	「受験票」を郵送するため長形 3 号（120mm×235mm）の封筒に、郵便番号、住所、氏名を明記のうえ、410 円（速達料を含む）分の切手を貼付したもの。

4. 留意事項

- ① 郵送する場合は、必ず簡易書留とし封筒の表に「編入学出願書類在中」と朱書きしてください。
- ② 出願書類に不備がある場合は、原則として出願書類を受理しません。
- ③ 出願後は、原則として記載事項の変更は認めません。
- ④ 受理した出願書類は、いかなる理由があっても返却しません。
- ⑤ 既納の検定料は、本校に出願しなかった場合又は出願が受理されなかった場合を除き、返還しません。
- ⑥ 出願書類に虚偽の記載をした者は、入学決定後であっても入学の許可を取り消すことがあります。

5. 障がい等のある志願者の事前相談

受験あるいは修学上特別な配慮（支援）を必要とする志願者は、事前に本校学生課教務係に相談してください。なお、内容によっては対応に時間を要することもあるので、出願前の早い時期に申し出てください。

IV 入学者選抜方法

入学者の選抜は、学力検査のほか面接及び調査書の内容の総合判定により行います。

1. 学力検査実施日等

学力検査等実施日	教科・科目等	実施時間	検査場
令和7年8月29日（金）	専 門 科 目	9:00～10:30	舞鶴工業高等専門学校
	数 学	10:45～11:35	
	英 語	12:35～13:25	
	理 科	13:40～14:30	
	面 接	14:45～	

（注）当日、午前8時45分までに本校の検査場に集合してください。

2. 教科・科目等の出題範囲

教科・科目等	出 題 範 囲
専門科目	【機械工学科志願者】 機械設計（機械に働く力と仕事、材料の強さ、ねじ） 【電気情報工学科志願者】 電気工学（直流回路、静電気、交流回路、情報） 【電子制御工学科志願者】 電気電子工学（直流回路、磁気、静電気、交流回路、ダイオード、トランジスタ、論理回路） 【建設システム工学科志願者】 必須 ● 構造力学（断面の性質、静定構造） 以下のいずれかを選択 ● 測量（距離測量、平板測量、水準測量、角測量、トラバース測量） ● 建築計画（建築史、建築計画「住宅、事務所」、建築環境「熱、光、音、換気、色」）
数 学	数学Ⅰ、数学Ⅱ
英 語	英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ
理 科	物理基礎・物理

3. 学力検査等の配点

専門科目	数学	英語	理科	面接	調査書	合計
100	100	100	100	50	50	500

(注1) 数学または理科の評点が、30点未満の場合は不合格とすることがあります。また、面接において、本校のアドミッション・ポリシー（入学者受入方針）に著しくそぐわないと判断した場合は不合格とする場合があります。

V 合格者発表

令和7年9月4日（木）午後1時に本校の掲示にて発表するとともに、午後2時に本校のホームページにおいても発表します。正式には、入学志願者及び出身学校長宛に書面により可否の通知を行います。

合格者は、合格通知書等を送付する際に同封する「入学誓約書」を令和7年9月11日（木）までに舞鶴工業高等専門学校学生課教務係へ提出してください。なお、「入学誓約書」を提出しない場合は、入学を辞退したものととして取り扱います。

VI 入学手続

入学手続日、入学手続に必要な本校所定の書類やその他詳細については、指定する期日までに「入学誓約書」を提出した者に対し通知します。

VII 個人情報の取り扱い

提出された編入学願書や調査書等に記載されている情報及び選抜に用いた試験成績・評価などの入学者選抜を通じて取得した個人情報は、入学者選抜の資料として利用するとともに、次の目的のためにも利用します。

- (1) 入学後の教育・指導
- (2) 入学料、授業料の免除申請審査
- (3) 奨学金申請の審査
- (4) 本校及び国立高等専門学校全体の教育制度・入学者選抜制度の改善のための調査・研究

VIII その他

試験当日、発熱・咳等の症状があるなど、体調が万全でない場合は、無理して受験せず、追試験の受験を申請してください。追試験の日程については別途、案内します。本募集要項に関する質問等については、次の連絡先に照会してください。

舞鶴工業高等専門学校学生課教務係

〒625-8511 京都府舞鶴市字白屋 234 番地

電話 0773-62-8881 FAX 0773-62-8889

E-mail: kyoumu@maizuru-ct.ac.jp

舞鶴工業高等専門学校 入学案内

1. 沿革概要

- 昭和 40 年 4 月 1 日 国立学校設置法の一部を改正する法律が公布され、機械工学科 2 学級及び電気工学科 1 学級を置く舞鶴工業高等専門学校を設置
- 昭和 40 年 4 月 26 日 開校式ならびに第 1 回入学式を挙行
- 昭和 45 年 4 月 1 日 土木工学科 1 学級を増設
- 平成 2 年 4 月 1 日 機械工学科 2 学級を機械工学科 1 学級、電子制御工学科 1 学級に改組
- 平成 6 年 4 月 1 日 土木工学科を建設システム工学科に改組
- 平成 12 年 4 月 1 日 専攻科(電気・制御システム工学専攻、建設・生産システム工学専攻)を設置
- 平成 12 年 4 月 7 日 第 1 回専攻科入学式を挙行
- 平成 16 年 4 月 1 日 電気工学科を電気情報工学科に名称変更
- 平成 16 年 4 月 1 日 独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する高等専門学校となる
- 平成 18 年 4 月 1 日 建設システム工学科に都市環境コースと建築コースを導入した
- 平成 27 年 4 月 1 日 専攻科を総合システム工学専攻 3 コース（電気電子システム工学コース、機械制御システム工学コース、建設工学コース）に改編

2. 目的

舞鶴工業高等専門学校は、教育基本法及び学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とし、その目的を実現するための教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。

3. 教育理念と教育方針

広く工学の基礎と教養を身につけ、問題発見・解決能力、創造力を有し、地域・社会の発展に寄与できる国際感覚豊かな実践的開発型技術者を育成することを教育理念とし、次のとおり教育方針を定めています。

- I 実験・実習、演習、ものづくりを重視する
- II 基礎に立ち返って考えさせる
- III 自ら学ぼうとする意欲を育てる
- IV 豊かな教養と国際性を育む

4. 学科の紹介

■ 機械工学科

本学科は、乗り物、電化製品、エネルギー等のあらゆる産業の基幹となる機械工学分野において、単なる「ものづくり」だけではなく、自然と調和のとれた高度の技術開発に貢献できる技術者の育成を目指しています。

- ① 系統化されたカリキュラムにより、自動車技術に見られるような機械工学の基礎から先端的機械技術に至るまでの幅広い分野の学習をします。
- ② 総合的な判断力や分析能力を高めるため、実験、実習、製図等の実践的科目を各学年に積極的に導入しています。
- ③ 材料、流体、熱、振動等に関する授業を通して、問題の解決、装置の設計・開発に必要な能力を養います。

■ 電気情報工学科

本学科は、電気・電子・情報・通信の4分野を柱とする教育プログラムにより、将来の技術革新にも柔軟に対応できる能力をもつ技術者の育成を行っています。

- ① パワーエレクトロニクス・AIなどの先端技術や、IoT・量子コンピュータなどの融合技術にも対応できるように、4分野の基盤技術を重点的に学習します。
- ② 4分野すべての実験・実習を幅広く複合的にを行い、講義で学んだことを体験として確かめることができます。
- ③ 卒業研究・工学基礎研究により、4分野の知識を連携させる能力や、実践的な創造力・発想力を養います。

■ 電子制御工学科

本学科は、私たちの身の回りにある家電製品、自動車、ロボット等といった様々な「モノ」に機能を与え、高性能化、知能化を実現するメカトロニクス技術者を育成します。

- ① メカトロニクス分野（機械、電気電子、情報、計測制御の4分野）の専門科目を基礎から応用までバランスよく学ぶカリキュラムとなっています。
- ② 機械工作、回路製作、CAD、プログラミングといった実習科目や、機械、電気電子、計測制御分野の実験科目を通じ、講義内容を実体験により確認することができます。
- ③ 各学年に問題解決型学習（PBL）の科目が配置されています。そこでは、各チーム内で互いに協力して機械設計、回路設計、制御系設計、プログラミング等を行い、ロボットをひとつの題材にして創造性豊かな技術者を育成します。

■ 建設システム工学科

本学科は、“都市環境コース（土木コース）”と“建築コース”のコース制が採用されています。

都市環境コース：道路、橋梁、トンネル、河川、上下水道、パイプライン、地下開発などの社会基盤の建設や維持管理および都市の防災、地球環境の保全について学びます。

建 築 コ ー ス：建物や住宅の計画・設計・施工や都市環境の創造、建物の防災について学びます。

- ① 3年次までは共通授業で両コースの基礎を学び、4年次からコースに分かれてそれぞれの専門知識や技術を修得します。
- ② 両コースとも基礎学力の徹底修得と実験実習を重視し、地域社会に貢献できる都市環境技術者および建築技術者を育成します。

※ 測量士補資格取得についての注意

建設システム工学科は、測量法施行令第 14 条に規定される「相当する学科」の認定を受けていますが、1 年生から在籍していることが条件となりますので、編入学の場合は適用されません。

※ 建築士受験資格についての注意

建設システム工学科建築コースのカリキュラムは建築士法第 14 条ならびに第 15 条に規定される「建築に関する科目（指定科目）」の確認を受けていますが、編入学生については指定科目の単位数が不足するため建築士試験受験資格の学歴要件を満たすことができません。

5. 各学科の定員

機 械 工 学 科	1 学級	40 名	電 子 制 御 工 学 科	1 学級	40 名	
電 気 情 報 工 学 科	1 学級	40 名	建 設 シ ス テ ム 工 学 科	1 学級	40 名	計 160 名

6. 修業年限及び授業

- (1) 修業年限 5 ヶ年の学年制です。（編入学試験による入学者は 2 ヶ年）
- (2) 授 業 1 ヶ年を前期・後期に分け、授業を行う期間は 35 週にわたることを原則とします。学校週 5 日制を実施しています。

7. 教育課程

各学年に共通する一般科目及び学科別の専門科目に分けて履修します。

各学年の履修科目は次のとおりです。

一般科目（機械工学科）

一般科目	単位数	1年	2年	3年	4年	5年
基礎数学 A	2	2				
基礎数学演習 A	1	1				
基礎数学 B	2	2				
基礎数学演習 B	1	1				
線形代数 A	1		1			
線形代数 B	1		1			
微分積分Ⅰ A	2		2			
微分積分Ⅰ B	2		2			
微分積分Ⅱ A	2			2		
確率統計	1			1		
微分積分Ⅱ B	2			2		
微分積分演習	1			1		
物理Ⅰ A	1	1				
物理Ⅰ B	1	1				
物理Ⅱ A	1		1			
物理Ⅱ B	1		1			
※ 物理Ⅲ	2				2	
化学Ⅰ A	1	1				
化学Ⅰ B	1	1				
化学Ⅱ A	1		1			
化学Ⅱ B	1		1			
ライフ&アースサイエンス A	1		1			
ライフ&アースサイエンス B	1		1			
保健体育Ⅰ	2	2				
保健体育Ⅱ	2		2			
保健体育Ⅲ	2			2		
総合英語Ⅰ A	2	2				
総合英語Ⅰ B	2	2				
総合英語Ⅱ A	2		2			
総合英語Ⅱ B	2		2			
総合英語Ⅲ A	1			1		
総合英語Ⅲ B	1			1		
※ 総合英語Ⅳ A	2				2	
※ 総合英語Ⅳ B	2				2	
英会話 A	1			1		
英会話 B	1			1		
現代文 A	1	1				
現代文 B	1	1				
古典 A	1	1				
古典 B	1	1				
総合国語Ⅰ A	1		1			
総合国語Ⅰ B	1		1			
◇ 総合国語Ⅱ A	1			1		
◇ 総合国語Ⅱ B	1			1		
芸術 A	1	1				
芸術 B	1	1				
歴史総合 A	1	1				
歴史総合 B	1	1				
公共 A	1		1			
公共 B	1		1			
◇ 人間論	1			1		
◇ ※ 現代社会	2				2	
◇ ※ 哲学	2				2	
◇ ※ 法学	2				2	
☆ ※ 日本語 A	2			2		
☆ ※ 日本語 B	2			2		
☆ ※ 日本語 C	2				2	
☆ ※ 日本語 D	2				2	
☆ ※ 日本語 E	2					2
☆ ※ 日本語 F	2					2

(令和8年度予定)

一般科目		単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
選 択 科 目	保健体育Ⅳ	2				2		注 3), 5) を 参 照
	保健体育Ⅴ	2					2	
	※ 総合英語Ⅴ	2					2	
	※ 人文特論Ⅰ A	2					2	
	※ 人文特論Ⅱ A							
	※ 人文特論Ⅲ A							
	※ 人文特論Ⅳ A							
	※ 人文特論Ⅰ B	2					2	
	※ 人文特論Ⅱ B							
	※ 人文特論Ⅲ B							
※ 人文特論Ⅳ B								
一般必修科目 開設単位数	73	24	22	15	12	0		
一般選択科目 開設単位数	10	0	0	0	2	8		
一般科目 開設単位数	83	24	22	15	14	8		

注 1) ※ 印の科目は学修単位科目である。

注 2) ☆ 印の科目は留学生に対して開設される。

注 3) ◇ 印の科目は留学生に対しては選択科目とする。

注 4) 一般選択科目を 2 単位以上（一般科目合計で 75 単位以上）修得すること。

注 5) 専門選択科目を 4 単位以上（専門科目合計で 82 単位以上）修得すること。

注 6) 一般選択科目、専門選択科目、学則第 14 条第 3 項の科目及び学則第 14 条の 4、第 14 条の 5 の規定に基づく単位認定を合わせて 16 単位以上（合計で 167 単位以上）を修得すること。

注 7) 学則第 14 条第 3 項の科目とは、「防災リテラシー」及び「インターンシップ」である。

専門科目、学則第14条第3項の科目と標準/進級/学年修了/卒業単位数（機械工学科）

（令和8年度予定）

専門科目	単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
応用物理	1			1			
※ 応用数学ⅠA	1				1		
応用数学ⅠB	1				1		
応用数学ⅡA	1				1		
応用数学ⅡB	1				1		
工業力学Ⅰ	1		1				
工業力学Ⅱ	1			1			
機械力学Ⅰ	1				1		
機械力学Ⅱ	1					1	
材料力学ⅠA	1			1			
材料力学ⅠB	1			1			
材料力学Ⅱ	1				1		
材料学Ⅰ	1			1			
材料学Ⅱ	1			1			
水力学Ⅰ	1				1		
水力学Ⅱ	1				1		
流体工学	1					1	
工業熱力学Ⅰ	1				1		
工業熱力学Ⅱ	1				1		
※ 伝熱工学	2					2	
情報処理Ⅰ	1	1					
情報処理Ⅱ	1		1				
機械設計法Ⅰ	1		1				
機械設計法Ⅱ	1			1			
機械工作法Ⅰ	1			1			
機械工作法Ⅱ	1				1		
※ 材料加工学	2					2	
※ 計測工学	2				2		
※ 制御工学	2				2		
入門機械実習	2	2					
工作実習Ⅰ	2		2				
工作実習Ⅱ	4			4			
設計製図Ⅰ	2	2					
設計製図Ⅱ	2		2				
設計製図Ⅲ	2			2			
設計製図Ⅳ	2				2		
設計製図Ⅴ	2					2	
機械工学実験Ⅰ	1				1		
機械工学実験Ⅱ	1					1	
工学基礎演習	1		1				
ものづくり演習	2			2			
計測工学演習	1			1			
※ 機械工学演習Ⅰ	2				2		
※ 機械工学演習Ⅱ	2					2	
※ 数値計算演習	2				2		
※ 機械工学特論	2				2		
創造設計製作	3				3		
卒業研究	10					10	
※ 電気回路	2					2	注3), 4) を参照
※ 機構学	2					2	
※ エネルギーシステム工学	2					2	
専門必修科目 開設単位数	78	5	8	17	27	21	
専門選択科目 開設単位数	6	0	0	0	0	6	
専門科目 開設単位数	84	5	8	17	27	27	

開設単位数（各学年の合計）		1年	2年	3年	4年	5年
一般科目	必修科目	24	22	15	12	0
	選択科目	0	0	0	2	8
	開設科目	24	22	15	14	8
専門科目	必修科目	5	8	17	27	21
	選択科目	0	0	0	0	6
	開設科目	5	8	17	27	27
学則第14条	必修科目	29	30	32	39	21
第3項の科目を	選択科目	0	0	0	2	14
除いた全科目	開設科目	29	30	32	41	35
学則第14条第3項の科目		1	0	0	1~2	1~2

開設単位数（各学年までの累計）		1年	2年	3年	4年	5年
一般科目	必修科目	24	46	61	73	73
	選択科目	0	0	0	2	10
	開設科目	24	46	61	75	83
専門科目	必修科目	5	13	30	57	78
	選択科目	0	0	0	0	6
	開設科目	5	13	30	57	84
学則第14条	必修科目	29	59	91	130	151
第3項の科目を 除いた科目	選択科目	0	0	0	2	16
	開設科目	29	59	91	132	167

標準/進級/学年修了/卒業単位数（各学年までの累計）	1年	2年	3年	4年	5年
標準単位数	29	59	91	132	—
進級単位数	23	53	85	126	—
学年修了単位数	23	53	79	126	—
卒業単位数	一般科目	—	—	—	75
	専門科目	—	—	—	82
	全体	—	—	—	167

注1) ※印の科目は学修単位科目である。

注2) 一般選択科目を2単位以上（一般科目合計で75単位以上）修得すること。

注3) 専門選択科目を4単位以上（専門科目合計で82単位以上）修得すること。

注4) 一般選択科目、専門選択科目、学則第14条第3項の科目及び学則第14条の4、第14条の5の規定に基づく単位認定を合わせて16単位以上（合計で167単位以上）を修得すること。

注5) 学則第14条第3項の科目は、卒業に必要な単位数（167単位）に含めることができるが、卒業に必要な一般科目の単位数（75単位）及び専門科目の単位数（82単位）に含めることができない。

注6) 学則第14条の4及び第14条の5の規定に基づく単位は、卒業に必要な単位数（167単位）に含めることができるが、卒業に必要な一般科目の単位数（75単位）及び専門科目の単位数（82単位）に含めることができない。

学則第14条第3項の科目	単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
防災リテラシー	1	1					注5) を参照
インターンシップ	1~4				1~2	1~2	

学則第14条の4及び第14条の5の規定に基づく単位認定	単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
知識・技能審査に係る単位認定	6単位以内				3単位以内	6単位以内	「舞鶴工業高等専門学校知識・技能審査に係る単位認定に関する規定（準学士課程）」を参照 注6) を参照
舞鶴工業高等専門学校以外の教育施設における学修	60単位以内						

一般科目（電気情報工学科）

（令和8年度予定）

一般科目		単位数	1年	2年	3年	4年	5年
必修科目	基礎数学 A	2	2				
	基礎数学演習 A	1	1				
	基礎数学 B	2	2				
	基礎数学演習 B	1	1				
	線形代数 A	1		1			
	線形代数 B	1		1			
	微分積分Ⅰ A	2		2			
	微分積分Ⅰ B	2		2			
	微分積分Ⅱ A	2			2		
	確率統計	1			1		
	微分積分Ⅱ B	2			2		
	微分積分演習	1			1		
	物理Ⅰ A	1	1				
	物理Ⅰ B	1	1				
	物理Ⅱ A	1		1			
	物理Ⅱ B	1		1			
	化学Ⅰ A	1	1				
	化学Ⅰ B	1	1				
	化学Ⅱ A	1		1			
	化学Ⅱ B	1		1			
	※ 物理Ⅲ	並列 開講	2			2	
	※ 化学Ⅲ						
	ライフ&アースサイエンス A	1		1			
	ライフ&アースサイエンス B	1		1			
	保健体育Ⅰ	2	2				
	保健体育Ⅱ	2		2			
	保健体育Ⅲ	2			2		
	総合英語Ⅰ A	2	2				
	総合英語Ⅰ B	2	2				
	総合英語Ⅱ A	2		2			
	総合英語Ⅱ B	2		2			
	総合英語Ⅲ A	1			1		
	総合英語Ⅲ B	1			1		
	※ 総合英語Ⅳ A	2				2	
	※ 総合英語Ⅳ B	2				2	
	英会話 A	1			1		
	英会話 B	1			1		
	現代文 A	1	1				
	現代文 B	1	1				
	古典 A	1	1				
	古典 B	1	1				
	総合国語Ⅰ A	1		1			
	総合国語Ⅰ B	1		1			
	◇ 総合国語Ⅱ A	1			1		
	◇ 総合国語Ⅱ B	1			1		
	芸術 A	1	1				
	芸術 B	1	1				
	歴史総合 A	1	1				
	歴史総合 B	1	1				
	公共 A	1		1			
	公共 B	1		1			
	◇ 人間論	1			1		
	◇ ※ 現代社会	2				2	
	◇ ※ 哲学	2				2	
	◇ ※ 法学	2				2	
	☆ ※ 日本語 A	2			2		
	☆ ※ 日本語 B	2			2		
	☆ ※ 日本語 C	2				2	
	☆ ※ 日本語 D	2				2	
	☆ ※ 日本語 E	2					2
	☆ ※ 日本語 F	2					2

一般科目		単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
選 択 科 目	保健体育Ⅳ	2				2		注 3), 5) を参照
	保健体育Ⅴ	2					2	
	※ 総合英語Ⅴ	2					2	
	※ 人文特論ⅠA	2					2	
	※ 人文特論ⅡA							
	※ 人文特論ⅢA							
	※ 人文特論ⅣA	2					2	
	※ 人文特論ⅠB							
	※ 人文特論ⅡB							
	※ 人文特論ⅢB							
※ 人文特論ⅣB								
一般必修科目 開設単位数		73	24	22	15	12	0	
一般選択科目 開設単位数		10	0	0	0	2	8	
一般科目 開設単位数		83	24	22	15	14	8	

注 1) ※ 印の科目は学修単位科目である。

注 2) ☆ 印の科目は留学生に対して開設される。

注 3) ◇印の科目は留学生に対しては選択科目とする。

注 4) 一般選択科目を 2 単位以上（一般科目合計で 75 単位以上）修得すること。

注 5) 専門選択科目を 4 単位以上（専門科目合計で 82 単位以上）修得すること。

注 6) 一般選択科目、専門選択科目、学則第 14 条第 3 項の科目及び学則第 14 条の 4、第 14 条の 5 の規定に基づく単位認定を合わせて 16 単位以上（合計で 167 単位以上）を修得すること。

注 7) 学則第 14 条第 3 項の科目とは、「防災リテラシー」及び「インターンシップ」である。

専門科目、学則第14条第3項の科目と標準/進級/学年修了/卒業単位数（電気情報工学科）

（令和8年度予定）

専門科目	単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
応用物理Ⅰ	1			1			
応用物理Ⅱ	1			1			
応用数学ⅠA	1				1		
応用数学ⅠB	1				1		
応用数学ⅡA	1				1		
応用数学ⅡB	1				1		
電気情報概論	1	1					
電気基礎	1	1					
電気回路	1	1					
交流回路Ⅰ	1		1				
交流回路Ⅱ	1		1				
アナログ回路	1			1			
デジタル回路	1			1			
回路実習	2			2			
電気磁気学Ⅰ	1			1			
電気磁気学Ⅱ	1			1			
※ 電気磁気学Ⅲ	2				2		
回路理論	1				1		
過渡現象論	1				1		
電子工学Ⅰ	1				1		
電子工学Ⅱ	1				1		
制御工学Ⅰ	1				1		
制御工学Ⅱ	1				1		
※ 電気機器	2				2		
※ 電磁気計測	2					2	
エネルギー工学Ⅰ	1					1	
エネルギー工学Ⅱ	1					1	
情報基礎	1	1					
メディアリテラシー	1	1					
情報数学	1		1				
C言語	1		1				
プログラミング実習	2			2			
情報理論	1			1			
アナログ信号処理	1			1			
デジタル信号処理	1			1			
※ 論理回路	2				2		
※ 通信工学	2				2		
※ ネットワーク論	2				2		
※ オペレーティングシステム	2					2	
※ 情報システム論	2					2	
電気情報工学実験ⅠA	2		2				
電気情報工学実験ⅠB	2		2				
電気情報工学実験ⅡA	2			2			
電気情報工学実験ⅡB	2			2			
電気情報工学実験ⅢA	2				2		
電気情報工学実験ⅢB	2				2		
電気情報工学実験ⅣA	2					2	
電気情報工学実験ⅣB	2					2	
創造工学	1				1		
工学基礎研究	1				1		
卒業研究	10					10	
※ 伝送工学	2					2	
※ 半導体工学	2					2	注3), 4) を
※ データ構造とアルゴリズム	2					2	参照
※ 映像メディア工学	2					2	
専門必修科目 開設単位数	78	5	8	17	26	22	
専門選択科目 開設単位数	8	0	0	0	0	8	
専門科目 開設単位数	86	5	8	17	26	30	

開設単位数（各学年の合計）		1年	2年	3年	4年	5年
一般科目	必修科目	24	22	15	12	0
	選択科目	0	0	0	2	8
	開設科目	24	22	15	14	8
専門科目	必修科目	5	8	17	26	22
	選択科目	0	0	0	0	8
	開設科目	5	8	17	26	30
学則第14条	必修科目	29	30	32	38	22
第3項の科目を	選択科目	0	0	0	2	16
除いた全科目	開設科目	29	30	32	40	38
学則第14条第3項の科目		1	0	0	1~2	1~2

開設単位数（各学年までの累計）		1年	2年	3年	4年	5年
一般科目	必修科目	24	46	61	73	73
	選択科目	0	0	0	2	10
	開設科目	24	46	61	75	83
専門科目	必修科目	5	13	30	56	78
	選択科目	0	0	0	0	8
	開設科目	5	13	30	56	86
学則第14条	必修科目	29	59	91	129	151
第3項の科目を 除いた科目	選択科目	0	0	0	2	18
	開設科目	29	59	91	131	169

標準/進級/学年修了/卒業単位数（各学年までの累計）	1年	2年	3年	4年	5年
標準単位数	29	59	91	131	—
進級単位数	23	53	85	125	—
学年修了単位数	29	53	79	125	—
卒業単位数	一般科目	—	—	—	75
	専門科目	—	—	—	82
	全体	—	—	—	167

注1) ※印の科目は学修単位科目である。

注2) 一般選択科目を2単位以上（一般科目合計で75単位以上）修得すること。

注3) 専門選択科目を4単位以上（専門科目合計で82単位以上）修得すること。

注4) 一般選択科目、専門選択科目、学則第14条第3項の科目及び学則第14条の4、第14条の5の規定に基づく単位認定を合わせて16単位以上（合計で167単位以上）を修得すること。

注5) 学則第14条第3項の科目は、卒業に必要な単位数（167単位）に含めることができるが、卒業に必要な一般科目の単位数（75単位）及び専門科目の単位数（82単位）に含めることができない。

注6) 学則第14条の4及び第14条の5の規定に基づく単位は、卒業に必要な単位数（167単位）に含めることができるが、卒業に必要な一般科目の単位数（75単位）及び専門科目の単位数（82単位）に含めることができない。

学則第14条第3項の科目	単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
防災リテラシー	1	1					注5)を参照
インターンシップ	1~4				1~2	1~2	企業・高等教育機関それぞれ2単位以内、各学年2単位以内

学則第14条の4及び第14条の5の規定に基づく単位認定	単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
知識・技能審査に係る単位認定	6単位以内				3単位以内	6単位以内	「舞鶴工業高等専門学校知識・技能審査に係る単位認定に関する規定（準学士課程）」を参照
舞鶴工業高等専門学校以外の教育施設における学修	60単位以内						「舞鶴工業高等専門学校以外の教育施設における学修に関する規定（準学士課程）」を参照

一般科目（電子制御工学科）

（令和8年度予定）

一般科目	単位数	1年	2年	3年	4年	5年
基礎数学 A	2	2				
基礎数学演習 A	1	1				
基礎数学 B	2	2				
基礎数学演習 B	1	1				
線形代数 A	1		1			
線形代数 B	1		1			
微分積分Ⅰ A	2		2			
微分積分Ⅰ B	2		2			
微分積分Ⅱ A	2			2		
確率統計	1			1		
微分積分Ⅱ B	2			2		
微分積分演習	1			1		
物理Ⅰ A	1	1				
物理Ⅰ B	1	1				
物理Ⅱ A	1		1			
物理Ⅱ B	1		1			
化学Ⅰ A	1	1				
化学Ⅰ B	1	1				
化学Ⅱ A	1		1			
化学Ⅱ B	1		1			
※ 物理Ⅲ	並列 開講	2			2	
※ 化学Ⅲ						
ライフ＆アースサイエンス A	1		1			
ライフ＆アースサイエンス B	1		1			
保健体育Ⅰ	2	2				
保健体育Ⅱ	2		2			
保健体育Ⅲ	2			2		
総合英語Ⅰ A	2	2				
総合英語Ⅰ B	2	2				
総合英語Ⅱ A	2		2			
総合英語Ⅱ B	2		2			
総合英語Ⅲ A	1			1		
総合英語Ⅲ B	1			1		
※ 総合英語Ⅳ A	2				2	
※ 総合英語Ⅳ B	2				2	
英会話 A	1			1		
英会話 B	1			1		
現代文 A	1	1				
現代文 B	1	1				
古典 A	1	1				
古典 B	1	1				
総合国語Ⅰ A	1		1			
総合国語Ⅰ B	1		1			
◇ 総合国語Ⅱ A	1			1		
◇ 総合国語Ⅱ B	1			1		
芸術 A	1	1				
芸術 B	1	1				
歴史総合 A	1	1				
歴史総合 B	1	1				
公共 A	1		1			
公共 B	1		1			
◇ 人間論	1			1		
◇ ※ 現代社会	2				2	
◇ ※ 哲学	2				2	
◇ ※ 法学	2				2	
☆ ※ 日本語 A	2			2		
☆ ※ 日本語 B	2			2		
☆ ※ 日本語 C	2				2	
☆ ※ 日本語 D	2				2	
☆ ※ 日本語 E	2					2
☆ ※ 日本語 F	2					2

必修科目

一般科目		単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
選 択 科 目	保健体育Ⅳ	2				2		注 3), 5) を参照
	保健体育Ⅴ	2					2	
	※ 総合英語Ⅴ	2					2	
	※ 人文特論Ⅰ A	2					2	
	※ 人文特論Ⅱ A							
	※ 人文特論Ⅲ A							
	※ 人文特論Ⅳ A	2					2	
	※ 人文特論Ⅰ B							
	※ 人文特論Ⅱ B							
	※ 人文特論Ⅲ B							
※ 人文特論Ⅳ B								
一般必修科目 開設単位数	73	24	22	15	12	0		
一般選択科目 開設単位数	10	0	0	0	2	8		
一般科目 開設単位数	83	24	22	15	14	8		

注 1) ※ 印の科目は学修単位科目である。

注 2) ☆ 印の科目は留学生に対して開設される。

注 3) ◇印の科目は留学生に対しては選択科目とする。

注 4) 一般選択科目を 2 単位以上（一般科目合計で 75 単位以上）修得すること。

注 5) 専門選択科目を 2 単位以上（専門科目合計で 82 単位以上）修得すること。

注 6) 一般選択科目、専門選択科目、学則第 1 4 条第 3 項の科目及び学則第 1 4 条の 4、第 1 4 条の 5 の規定に基づく単位認定を合わせて 14 単位以上（合計で 167 単位以上）を修得すること。

注 7) 学則第 1 4 条第 3 項の科目とは、「防災リテラシー」及び「インターンシップ」である。

専門科目、学則第14条第3項の科目と標準/進級/学年修了/卒業単位数（電子制御工学科）

（令和8年度予定）

専門科目	単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
応用物理Ⅰ	1			1			
応用物理Ⅱ	1			1			
応用数学ⅠA	1				1		
応用数学ⅠB	1				1		
応用数学ⅡA	1				1		
応用数学ⅡB	1				1		
電気基礎Ⅰ	1	1					
電気基礎Ⅱ	1	1					
電子工学Ⅰ	1		1				
電子工学Ⅱ	1		1				
電子回路Ⅰ	1			1			
電子回路Ⅱ	1			1			
※ 電子回路Ⅲ	2				2		
電子回路Ⅳ	1					1	
電気磁気学Ⅰ	1				1		
電気磁気学Ⅱ	1				1		
力学Ⅰ	1			1			
力学Ⅱ	1			1			
水力学Ⅰ	1				1		
水力学Ⅱ	1				1		
熱力学Ⅰ	1				1		
熱力学Ⅱ	1				1		
材料力学Ⅰ	1				1		
材料力学Ⅱ	1				1		
振動工学Ⅰ	1				1		
振動工学Ⅱ	1					1	
情報基礎	1	1					
プログラミングⅠ	1		1				
プログラミングⅡ	1			1			
プログラミングⅢ	1			1			
組込みシステムⅠ	1			1			
組込みシステムⅡ	1			1			
※ 数値計算法	2					2	
制御工学Ⅰ	1			1			
制御工学Ⅱ	1				1		
※ 制御工学Ⅲ	2				2		
※ システム制御	2					2	
※ 計測工学	2					2	
※ ロボティクスⅠ	2				2		
※ ロボティクスⅡ	2				2		
※ ロボットビジョン	2					2	
メカトロニクス演習Ⅰ	1	1					
メカトロニクス演習Ⅱ	1	1					
製図基礎	1		1				
CAD演習Ⅰ	1			1			
CAD演習Ⅱ	1			1			
制御系設計演習	1					1	
回路設計演習	1					1	
電子制御実習	4		4				
電子制御実験	4			4			
創造設計プロジェクト	2				2		
機械工学実験	2				2		
制御工学実験	2					2	
卒業研究	10					10	
選択科目							
※ ロボティクスⅢ	2					2	注3), 4) を
※ 情報学	2					2	参照
専門必修科目 開設単位数	80	5	8	17	26	24	
専門選択科目 開設単位数	4	0	0	0	0	4	
専門科目 開設単位数	84	5	8	17	26	28	

開設単位数（各学年の合計）	1年	2年	3年	4年	5年
一般科目	24	22	15	12	0
必修科目	24	22	15	12	0
選択科目	0	0	0	2	8
開設科目	24	22	15	14	8
専門科目	5	8	17	26	24
必修科目	5	8	17	26	28
選択科目	0	0	0	0	4
開設科目	5	8	17	26	28
学則第14条第3項の科目を除いた全科目	29	30	32	38	24
必修科目	29	30	32	38	24
選択科目	0	0	0	2	12
開設科目	29	30	32	40	36
学則第14条第3項の科目	1	0	0	1~2	1~2

開設単位数（各学年までの累計）	1年	2年	3年	4年	5年
一般科目	24	46	61	73	73
必修科目	24	46	61	73	73
選択科目	0	0	0	2	10
開設科目	24	46	61	75	83
専門科目	5	13	30	56	80
必修科目	5	13	30	56	84
選択科目	0	0	0	0	4
開設科目	5	13	30	56	84
学則第14条第3項の科目を除いた科目	29	59	91	129	153
必修科目	29	59	91	129	153
選択科目	0	0	0	2	14
開設科目	29	59	91	131	167

標準/進級/学年修了/卒業単位数（各学年までの累計）	1年	2年	3年	4年	5年
標準単位数	29	59	91	131	—
進級単位数	23	53	85	125	—
学年修了単位数	23	53	79	125	—
卒業単位数	—	—	—	—	75
一般科目	—	—	—	—	75
専門科目	—	—	—	—	82
全体	—	—	—	—	167

注1) ※印の科目は学修単位科目である。

注2) 一般選択科目を2単位以上（一般科目合計で75単位以上）修得すること。

注3) 専門選択科目を2単位以上（専門科目合計で82単位以上）修得すること。

注4) 一般選択科目、専門選択科目、学則第14条第3項の科目及び学則第14条の4、第14条の5の規定に基づく単位認定を合わせて14単位以上（合計で167単位以上）を修得すること。

注5) 学則第14条第3項の科目は、卒業に必要な単位数（167単位）に含めることができるが、卒業に必要な一般科目の単位数（75単位）及び専門科目の単位数（82単位）に含めることができない。

注6) 学則第14条の4及び第14条の5の規定に基づく単位は、卒業に必要な単位数（167単位）に含めることができるが、卒業に必要な一般科目の単位数（75単位）及び専門科目の単位数（82単位）に含めることができない。

学則第14条第3項の科目	単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
防災リテラシー	1	1					注5) を参照
インターンシップ	1~4				1~2	1~2	企業・高等教育機関それぞれ2単位以内、各学年2単位以内

学則第14条の4及び第14条の5の規定に基づく単位認定	単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
知識・技能審査に係る単位認定	6単位以内				3単位以内	6単位以内	「舞鶴工業高等専門学校知識・技能審査に係る単位認定に関する規定（準学士課程）」を参照
舞鶴工業高等専門学校以外の教育施設における学修	60単位以内						「舞鶴工業高等専門学校以外の教育施設における学修に関する規定（準学士課程）」を参照

一般科目（建設システム工学科）

（令和8年度予定）

一般科目	単位数	1年	2年	3年	4年	5年
基礎数学 A	2	2				
基礎数学演習 A	1	1				
基礎数学 B	2	2				
基礎数学演習 B	1	1				
線形代数 A	1		1			
線形代数 B	1		1			
微分積分Ⅰ A	2		2			
微分積分Ⅰ B	2		2			
微分積分Ⅱ A	2			2		
確率統計	1			1		
微分積分Ⅱ B	2			2		
微分積分演習	1			1		
物理Ⅰ A	1	1				
物理Ⅰ B	1	1				
物理Ⅱ A	1		1			
物理Ⅱ B	1		1			
※ 物理Ⅲ	2				2	
化学Ⅰ A	1	1				
化学Ⅰ B	1	1				
化学Ⅱ A	1		1			
化学Ⅱ B	1		1			
ライフ&アースサイエンス A	1		1			
ライフ&アースサイエンス B	1		1			
保健体育Ⅰ	2	2				
保健体育Ⅱ	2		2			
保健体育Ⅲ	2			2		
総合英語Ⅰ A	2	2				
総合英語Ⅰ B	2	2				
総合英語Ⅱ A	2		2			
総合英語Ⅱ B	2		2			
総合英語Ⅲ A	1			1		
総合英語Ⅲ B	1			1		
※ 総合英語Ⅳ A	2				2	
※ 総合英語Ⅳ B	2				2	
英会話 A	1			1		
英会話 B	1			1		
現代文 A	1	1				
現代文 B	1	1				
古典 A	1	1				
古典 B	1	1				
総合国語Ⅰ A	1		1			
総合国語Ⅰ B	1		1			
◇ 総合国語Ⅱ A	1			1		
◇ 総合国語Ⅱ B	1			1		
芸術 A	1	1				
芸術 B	1	1				
歴史総合 A	1	1				
歴史総合 B	1	1				
公共 A	1		1			
公共 B	1		1			
◇ 人間論	1			1		
◇ ※ 現代社会	2				2	
◇ ※ 哲学	2				2	
◇ ※ 法学	2				2	
☆ ※ 日本語 A	2			2		
☆ ※ 日本語 B	2			2		
☆ ※ 日本語 C	2				2	
☆ ※ 日本語 D	2				2	
☆ ※ 日本語 E	2					2
☆ ※ 日本語 F	2					2

必修科目

一般科目		単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
選択科目	保健体育Ⅳ	2				2		注 3), 5) を参照
	保健体育Ⅴ	2					2	
	※ 総合英語Ⅴ	2					2	
	※ 人文特論ⅠA	2					2	
	※ 人文特論ⅡA							
	※ 人文特論ⅢA							
	※ 人文特論ⅣA	2					2	
	※ 人文特論ⅠB							
	※ 人文特論ⅡB							
	※ 人文特論ⅢB							
※ 人文特論ⅣB								
一般必修科目 開設単位数	73	24	22	15	12	0		
一般選択科目 開設単位数	10	0	0	0	2	8		
一般科目 開設単位数	83	24	22	15	14	8		

注 1) ※ 印の科目は学修単位科目である。

注 2) ☆ 印の科目は留学生に対して開設される。

注 3) ◇印の科目は留学生に対しては選択科目とする。

注 4) 一般選択科目を 2 単位以上（一般科目合計で 75 単位以上）修得すること。

注 5) 専門選択科目を 3 単位以上（専門科目合計で 82 単位以上）修得すること。

注 6) 一般選択科目、専門選択科目、学則第 1 4 条第 3 項の科目及び学則第 1 4 条の 4、第 1 4 条の 5 の規定に基づく単位認定を合わせて 15 単位以上（合計で 167 単位以上）を修得すること。

注 7) 学則第 1 4 条第 3 項の科目とは、「防災リテラシー」及び「インターンシップ」である。

専門科目、学則第14条第3項の科目と標準/進級/学年修了/卒業単位数（建設システム工学科 都市環境コース）

（令和8年度予定）

専門科目	単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
建設システム工学概論Ⅰ	1	1					
建設システム工学概論Ⅱ	1	1					
応用物理Ⅰ	1			1			
応用物理Ⅱ	1			1			
応用数学ⅠA	1				1		
応用数学ⅠB	1				1		
応用数学ⅡA	1				1		
応用数学ⅡB	1				1		
情報リテラシー	1	1					
情報処理	1					1	
構造力学ⅠA	1		1				
構造力学ⅠB	1		1				
構造力学ⅡA	1			1			
構造力学ⅡB	1			1			
構造力学ⅢA	1				1		
構造力学ⅢB	1				1		
建築一般構造	1			1			
建設材料学	1			1			
コンクリート構造学Ⅰ	1				1		
※ コンクリート構造学Ⅱ	2				2		
※ 鋼構造学	2					2	
水理学ⅠA	1			1			
水理学ⅠB	1			1			
地盤工学ⅠA	1			1			
地盤工学ⅠB	1			1			
※ 地盤工学Ⅱ	2				2		
※ 環境工学Ⅰ	2				2		
都市計画	1			1			
建築計画Ⅰ	1			1			
※ 建築史	2				2		
測量学Ⅰ	1	1					
測量学Ⅱ	1		1				
応用測量学Ⅰ	1					1	
応用測量学Ⅱ	1					1	
測量実習	3		3				
建設システム工学実験ⅠA	1			1			
建設システム工学実験ⅠB	1			1			
建設製図Ⅰ	1	1					
建設製図Ⅱ	2		2				
建設製図制作	3			3			
※ 建設設計製図Ⅰ	2				2		
建設設計製図Ⅱ	2					2	
卒業研究・卒業設計	10					10	
※ 水理学Ⅱ	2				2		
※ 河川工学	2				2		
海岸工学	1					1	
土木施工Ⅰ	1				1		
土木施工Ⅱ	1					1	
環境衛生学Ⅰ	1				1		都市環境 コース科目
環境衛生学Ⅱ	1				1		
環境工学ⅡA	1					1	
環境工学ⅡB	1					1	
※ 土木計画	2				2		
建設システム工学実験ⅡA	1				1		
建設システム工学実験ⅡB	1				1		
応用構造力学	1					1	
※ 建設設計製図Ⅲ	2					2	注3), 4) を
※ 耐震工学	2					2	参照
地盤防災工学	1					1	
専門必修科目 開設単位数	79	5	8	17	28	21	
専門選択科目 開設単位数	6	0	0	0	0	6	
専門科目 開設単位数	85	5	8	17	28	27	

開設単位数（各学年の合計）		1年	2年	3年	4年	5年
一般科目	必修科目	24	22	15	12	0
	選択科目	0	0	0	2	8
	開設科目	24	22	15	14	8
専門科目	必修科目	5	8	17	28	21
	選択科目	0	0	0	0	6
	開設科目	5	8	17	28	27
学則第14条	必修科目	29	30	32	40	21
第3項の科目を 除いた全科目	選択科目	0	0	0	2	14
	開設科目	29	30	32	42	35
学則第14条第3項の科目		1	0	0	1~2	1~2

開設単位数（各学年までの累計）		1年	2年	3年	4年	5年
一般科目	必修科目	24	46	61	73	73
	選択科目	0	0	0	2	10
	開設科目	24	46	61	75	83
専門科目	必修科目	5	13	30	58	79
	選択科目	0	0	0	0	6
	開設科目	5	13	30	58	85
学則第14条	必修科目	29	59	91	131	152
第3項の科目を 除いた科目	選択科目	0	0	0	2	16
	開設科目	29	59	91	133	168

標準/進級/学年修了/卒業単位数 （各学年までの累計）	1年	2年	3年	4年	5年
標準単位数	29	59	91	133	—
進級単位数	23	53	85	127	—
学年修了単位数	23	53	79	127	—
卒業単位数	一般科目	—	—	—	75
	専門科目	—	—	—	82
	全体	—	—	—	167

注1) ※印の科目は学修単位科目である。

注2) 一般選択科目を2単位以上（一般科目合計で75単位以上）修得すること。

注3) 専門選択科目を3単位以上（専門科目合計で82単位以上）修得すること。

注4) 一般選択科目、専門選択科目、学則第14条第3項の科目及び学則第14条の4、第14条の5の規定に基づく単位認定を合わせて15単位以上（合計で167単位以上）を修得すること。

注5) 学則第14条第3項の科目は、卒業に必要な単位数（167単位）に含めることができるが、卒業に必要な一般科目の単位数（75単位）及び専門科目の単位数（82単位）に含めることができない。

注6) 学則第14条の4及び第14条の5の規定に基づく単位は、卒業に必要な単位数（167単位）に含めることができるが、卒業に必要な一般科目の単位数（75単位）及び専門科目の単位数（82単位）に含めることができない。

学則第14条第3項の科目	単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
防災リテラシー	1	1					注5)を 参照
インターンシップ	1~4				1~2	1~2	企業・高等教育機関それぞれ2単位以内、各学年2単位以内

学則第14条の4及び第14条の5の規定に基づく単位認定	単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
知識・技能審査に係る単位認定	6単位 以内				3単位 以内	6単位 以内	「舞鶴工業高等専門学校知識・技能審査に係る単位認定に関する規定（準学士課程）」を参照
舞鶴工業高等専門学校以外の教育施設における学修	60単位 以内						「舞鶴工業高等専門学校以外の教育施設における学修に関する規定（準学士課程）」を参照

専門科目、学則第14条第3項の科目と標準/進級/学年修了/卒業単位数（建設システム工学科 建築コース）（令和8年度予定）

専門科目	単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
建設システム工学概論Ⅰ	1	1					
建設システム工学概論Ⅱ	1	1					
応用物理Ⅰ	1			1			
応用物理Ⅱ	1			1			
応用数学ⅠA	1				1		
応用数学ⅠB	1				1		
応用数学ⅡA	1				1		
応用数学ⅡB	1				1		
情報リテラシー	1	1					
情報処理	1					1	
構造力学ⅠA	1		1				
構造力学ⅠB	1		1				
構造力学ⅡA	1			1			
構造力学ⅡB	1			1			
構造力学ⅢA	1				1		
構造力学ⅢB	1				1		
建築一般構造	1			1			
建設材料学	1			1			
コンクリート構造学Ⅰ	1				1		
※ コンクリート構造学Ⅱ	2				2		
※ 鋼構造学	2					2	
水理学ⅠA	1			1			
水理学ⅠB	1			1			
地盤工学ⅠA	1			1			
地盤工学ⅠB	1			1			
※ 地盤工学Ⅱ	2				2		
※ 環境工学Ⅰ	2				2		
都市計画	1			1			
建築計画Ⅰ	1			1			
※ 建築史	2				2		
測量学Ⅰ	1	1					
測量学Ⅱ	1		1				
応用測量学Ⅰ	1					1	
応用測量学Ⅱ	1					1	
測量実習	3		3				
建設システム工学実験ⅠA	1			1			
建設システム工学実験ⅠB	1			1			
建設製図Ⅰ	1	1					
建設製図Ⅱ	2		2				
建設製図制作	3			3			
※ 建設設計製図Ⅰ	2				2		
建設設計製図Ⅱ	2					2	
卒業研究・卒業設計	10					10	
※ 建築計画Ⅱ	2				2		
※ 建築論	2				2		
建築構造Ⅰ	1				1		
建築構造Ⅱ	1					1	
※ 建築施工	2				2		
建築環境Ⅰ	1				1		
建築環境Ⅱ	1				1		
建築設備Ⅰ	1					1	
建築設備Ⅱ	1					1	
建築法規	1					1	
建築デザイン	2				2		
応用構造力学	1					1	
※ 建設設計製図Ⅲ	2					2	注3)、4)を
※ 耐震工学	2					2	参照
地盤防災工学	1					1	
専門必修科目 開設単位数	79	5	8	17	28	21	
専門選択科目 開設単位数	6	0	0	0	0	6	
専門科目 開設単位数	85	5	8	17	28	27	

開設単位数（各学年の合計）		1年	2年	3年	4年	5年
一般科目	必修科目	24	22	15	12	0
	選択科目	0	0	0	2	8
	開設科目	24	22	15	14	8
専門科目	必修科目	5	8	17	28	21
	選択科目	0	0	0	0	6
	開設科目	5	8	17	28	27
学則第14条 第3項の科目を 除いた全科目	必修科目	29	30	32	40	21
	選択科目	0	0	0	2	14
	開設科目	29	30	32	42	35
学則第14条第3項の科目		1	0	0	1~2	1~2

開設単位数（各学年までの累計）		1年	2年	3年	4年	5年
一般科目	必修科目	24	46	61	73	73
	選択科目	0	0	0	2	10
	開設科目	24	46	61	75	83
専門科目	必修科目	5	13	30	58	79
	選択科目	0	0	0	0	6
	開設科目	5	13	30	58	85
学則第14条	必修科目	29	59	91	131	152
第3項の科目を	選択科目	0	0	0	2	16
除いた科目	開設科目	29	59	91	133	168

標準/進級/学年修了/卒業単位数 （各学年までの累計）	1年	2年	3年	4年	5年
標準単位数	29	59	91	133	—
進級単位数	23	53	85	127	—
学年修了単位数	23	53	79	127	—
卒業単位数	一般科目	—	—	—	75
	専門科目	—	—	—	82
	全体	—	—	—	167

- 注1) ※印の科目は学修単位科目である。
- 注2) 一般選択科目を2単位以上（一般科目合計で75単位以上）修得すること。
- 注3) 専門選択科目を3単位以上（専門科目合計で82単位以上）修得すること。
- 注4) 一般選択科目、専門選択科目、学則第14条第3項の科目及び学則第14条の4、第14条の5の規定に基づく単位認定を合わせて15単位以上（合計で167単位以上）を修得すること。
- 注5) 学則第14条第3項の科目は、卒業に必要な単位数（167単位）に含めることができるが、卒業に必要な一般科目の単位数（75単位）及び専門科目の単位数（82単位）に含めることができない。
- 注6) 学則第14条の4及び第14条の5の規定に基づく単位は、卒業に必要な単位数（167単位）に含めることができるが、卒業に必要な一般科目の単位数（75単位）及び専門科目の単位数（82単位）に含めることができない。

学則第14条第3項の科目	単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
防災リテラシー	1	1					注5)を 参照
インターンシップ	1~4				1~2	1~2	

学則第14条の4及び第14条の5の規定に基づく単位認定	単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
知識・技能審査に係る単位認定	6単位 以内				3単位 以内	6単位 以内	「舞鶴工業高等専門学校知識・技能審査に係る単位認定に関する規定（準学士課程）」を参照 「舞鶴工業高等専門学校以外の教育施設における学修に関する規定（準学士課程）」を参照
舞鶴工業高等専門学校以外の教育施設における学修	60単位 以内						

8. 課外活動

学生の大半が寮生活をしていることもあって、クラブ活動は盛んに行われています。

文化系クラブでは各種コンテスト出場や演奏会の開催、体育系クラブでは各種の競技会に出場するほか、近畿地区や全国の高専体育大会に出場しています。

【クラブ】 陸上競技、バスケットボール、バレーボール、ソフトテニス、卓球、柔道、剣道、サッカー、硬式野球、ハンドボール、バドミントン、水泳、テニス、弓道、空手道、フリークライミング、自動車、アマチュア無線、吹奏楽、プログラマーズ・コミュニティ、創造技術研究会、華道、デザコン、軽音楽、HANDMADE

【同好会】 文学研究会

9. 学寮

- (1) 教育施設の一環として学寮（男子寮・女子寮）を設けています。
- (2) 入寮を希望する者は、選考により入寮できます。ただし、通学に要する時間が1時間30分以内の者は、入寮選考の対象外となることがあります。
- (3) 寮室は1室1～2名となっており、ベッド（寝具を除く）、机、椅子、ロッカーが備えつけられています。

10. 施設概要

校地面積 121,976 m²

校舎、図書館、情報科学センター、地域共同テクノセンター、実習工場、実験実習地、福利厚生施設（青葉会館）、合宿研修所、第1体育館、第2体育館、トレーニングセンター、武道場、クラブハウス、陸上競技場（400mトラック）、野球場、第2グラウンド、テニスコート（4面）、プール（25m）、学寮

11. 必要経費

（令和7年4月現在）

費目	入学時	年間	備考
入学料	84,600 円		
授業料		234,600 円	前期（5月）・後期（10月）に分納
教科書	約 40,000 円		学科によって若干異なる
教材	約 30,000 円		学科によって若干異なる
研修旅行積立金		96,000 円	前期（4月）：4年のみ
学生会費	2,500 円	6,000 円	前期（4月）・後期（10月）に分納
諸経費	10,000 円	24,500 円	前期（4月）・後期（10月）に分納
合計	約 167,100 円	361,100 円	

（注）在学中に授業料の改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。

【学寮経費】

(令和7年4月現在)

費目	月額	備考
寄宿料	800 円	前期(4月)・後期(10月)に6ヵ月分納入
食費	30,000 円	30日の場合(1日1,000円)
食堂運営費	9,000 円	30日の場合(1日300円)
学寮諸経費	12,200 円	前期(4月)・後期(10月)に6ヵ月分納入
寮生会費	200 円	前期(4月)・後期(10月)に6ヵ月分納入
計	52,200 円	

(注) 学寮諸経費とは、水道光熱費、エアコン経費、洗濯・乾燥機リース料、ごみ処理費、共用消耗品購入費など、寮生が日常生活で必要となる費用です。

12. 入学料・授業料の免除及び奨学金制度について

入学料・授業料の免除及び奨学金制度は、以下のような制度があります。詳細は担当係まで問い合わせてください。

- ・国立高等専門学校機構の制度による入学料・授業料の免除
- ・高等教育の修学支援新制度による入学料・授業料の免除
- ・日本学生支援機構給付・貸与奨学金
- ・その他の奨学制度

(担当係) 学生課学生支援係 電話 0773-62-8882

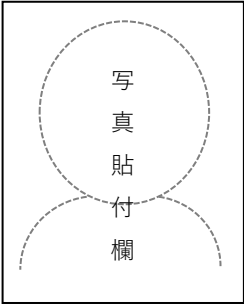
令和8年度 舞鶴工業高等専門学校
編入学志願者

入 学 願 書

志望学科	工学科		※ 受験番号	
志 願 者	ふりがな			生年月日
	氏名			平成 年 月 日生
	ふりがな			
	現住所			
者	〒	TEL ()		—
	学歴	府・県 高等学校 年 月 科 卒業・卒業見込		
保 護 者	ふりがな			
	氏名			志願者 との続柄
	ふりがな			
	現住所			
	〒	TEL ()		—

令和8年度 舞鶴工業高等専門学校
編入学志願者

写 真 票

志望学科	
※ 受験番号	
氏 名	
生年月日	平成 年 月 日生
出 身 高等学校	高等学校
	
(注) 1. 写真は上半身脱帽正面向きで 3ヶ月以内に撮影したもの。 2. 写真の裏面全面に、のり付けし てください。 (年 月撮影)	

令和8年度 舞鶴工業高等専門学校
編入学志願者

受 験 票

志望学科		
※ 受験番号		
氏 名		
生年月日	平成 年 月 日生	
出 身 高等学校	高等学校	
学力検査・面接時間割		
月 日	事 項	時 間
8月29日 (金)	(集 合)	8 : 45
	専門科目	9 : 00~10 : 30
	数 学	10 : 45~11 : 35
	英 語	12 : 35~13 : 25
	理 科	13 : 40~14 : 30
	面 接	14 : 45~

受験上の注意

1. 筆記用具、時計、眼鏡及び目薬は持ち込むことができます。
2. 筆記用具は黒鉛筆、シャープペンシル（替え芯は、シャープペンシル本体の中に入れるか、芯のみ机の上に置いてください）、鉛筆削り、消しゴムとし、その他筆箱、定規等は一切持ち込んではいけません。
認められた物以外の物を持ち込んだ場合は、不正行為と見なすことがあります。
3. スマートウォッチ、スマートグラス、携帯電話等の通信機器は持ち込むことはできません。電源を切って、荷物の中に入れてください。
なお、面接待機中に携帯電話等を使用している場合は、不正行為とみなします。
4. 荷物は、指定する場所に置いてください。
5. 受験会場では受験番号順に着席してください。
6. 受験票は机の上に提示してください。
7. 試験会場では、係員の指示に従ってください。
8. 食事は検査室で食べてください。
9. 受験票は、必ず携行してください。
10. 受験票を忘れたとき、又は紛失したときは、直ちに係員に届け出て指示を受けてください。
11. 遅刻等の場合は、係員に申し出て、その指示に従ってください。
12. 受験会場には時計はありません。

記入上の注意（入学願書・写真票・受験票）

1. ※印欄は記入しないでください。
2. 黒インク又はボールペンを使用し、かい書で記入してください。
3. 保護者の現住所が志願者と同じ場合は、記入しないで「志願者と同じ」を○で囲んでください。

※ 受験番号	
-----------	--

推 薦 書

令和 年 月 日

舞鶴工業高等専門学校長

林 康 裕 殿

学 校 名

学校長名 印

下記の者は、貴校編入学試験を受験するにふさわしい者と認めて推薦します。

記

ふりがな		男・女	生年月日	平成 年 月 日生
氏 名				
出身科		志望学科	工学科	
学業成績 順 位	1 年		2 年	
	人中 位		人中 位	
推 薦 理 由				

(注) 推薦理由は、本人の学業・人物・課外活動・態度等について具体的に記入してください。

令和8年度 舞鶴工業高等専門学校 検定料 振込依頼書

下記の注意事項をご覧ください。必要事項を記入後、最寄りの「電信扱」が利用できる金融機関から、振り込みください。

【注意事項】

- ① 志願者本人の氏名並びにフリガナを記入してください。
- ② 必ず窓口で払い込み、ATM（現金自動預け払い機）、パソコン等は利用しないでください。
- ③ 「払込金証明書」は、金融機関の領収印があることを確認し、検定料振込証明書貼付用紙に貼り付けて出願してください。
- ④ 振り込みの際には、金融機関所定の手数料が必要となります。
- ⑤ 「領収証書」は、改めて学校から発行しませんので、金融機関発行の「振込金受取書」を大切に保管願います。
- ⑥ ゆうちょ銀行・郵便局から振り込む場合、通帳、印鑑及びゆうちょ銀行所定の振込依頼書（窓口記入）が必要です。
その場合、ゆうちょ銀行・郵便局にて以下の「振込金証明書」に証明のうえ、検定料振込証明書貼付用紙に貼り付けてください。

振込金(検定料)受取書

(兼手数料)

年		月		日	
金 額	16,500 円				
振込先銀行	京 都 銀 行 東 舞 鶴 支 店				
受取人	預金種目	普通預金	口座番号	3608956	
名前	独立行政法人国立高等専門学校機構本部				
フリガナ 志願者	(フリガナ)				
	(名前)				
		手数料	円		

上記の金額を正に受け取りました。
(取扱店)

銀行
支店

領収印

(志願者保管)

* 本振込金受取書は大切に保管願います。

振込金(検定料)証明書

(兼手数料)

年		月		日	
金 額	16,500 円				
振込先銀行	京 都 銀 行 東 舞 鶴 支 店				
受取人	預金種目	普通預金	口座番号	3608956	
名前	独立行政法人国立高等専門学校機構本部				
フリガナ 志願者	(フリガナ)				
	(名前)				
		手数料	円		

上記のとおり振り込みましたからご通知申し上げます。
(取扱店)

銀行
支店

領収印

(取扱店)→(志願者)→(舞鶴高専)

* 本証明書を検定料振込証明書貼付用紙に
貼り付けて出願してください。

払込(検定料)依頼書 (取扱店控)

ご依頼日	年		月		日		電 信 扱		手数料 円							
振込先 銀行	京 都 銀 行 東 舞 鶴 支 店						金 額	百万		千	1	6	5	0	0	円
	預金種目	普通	口座番号	3608956				内 訳	現金							
受取人	(フリガナ) ドクコクリツコウトウセンモンガツコウキコウホンブ						内 訳		当店券							
	(名前) 独立行政法人 国立高等専門学校機構本部															
志願者	(フリガナ)						収納印・振替印									
	(名前)															
	(住所) TEL - -															

【注意事項】

- ① 志願者本人の氏名並びにフリガナを記入してください。
- ② 必ず窓口で払い込み、ATM（現金自動預け払い機）、パソコン等は利用しないでください。
- ③ 振り込みの際には、金融機関所定の手数料が必要となります。

検定料振込証明書貼付用紙

振込金(検定料)証明書を下の貼付欄にのり付けしてください。

貼付欄

至三浜

大波下

大波上

小学校

朝来

朝来中

舞鶴湾

日本板硝子 舞鶴工場

青葉山 ▲

舞鶴工業高等専門学校

国立高専前バス停

松尾寺

海上自衛隊舞鶴教育隊

舞鶴市役所

新日本海フェリー

東舞鶴高校

JR小浜線

JR松尾寺駅

志楽小学校

安岡

舞鶴高専案内標識

金剛院

至小浜敦賀

至宮津

至京都

JR東舞鶴駅

JR西舞鶴駅

至神戸・大阪

舞鶴若狭自動車道

舞鶴東インターチェンジ

- J R東舞鶴駅から京都交通バス朝来循環線に乗車、国立高専前で下車
(運行本数が少ないためご注意ください)
- J R東舞鶴駅からタクシー利用(所要約12分で、料金は**3,000**円程度です)
- J R松尾寺駅から徒歩25分
- 舞鶴東インターチェンジから車で7分